

LCC News Letter 5.

7 November 2010 LCC広報担当

「建学の精神」小学生から卒業生OBまで！

同志社大学では、2005年に「教養教育」充実の一環として、創立者である新島襄と建学精神について学ぶ「同志社科目」が設置され、同志社大学独自のアイデンティティ、それを「建学の精神」と呼んで継承し発展させようとしています。

今秋、開校した同志社国際学院（DIA）初等部での英語教育においても、「良心教育」の発現という同志社教育の理念を掲げます。それは、世界の人々に「良心」を伝えるためのコミュニケーションを可能にする英語教育の実践です。

（同志社時報130号・44頁）

また、理工系教育の国際化についても、大学ランキングを上げることをのみを追求する国際化では、同志社大学の教育理念から外れると書かれています。

（130号・36頁）

そして、LCCが社会に向けて、ボランティア・PR活動を行っている同志社大学ビジネス研究科（DBS）の使命の一つに「グローバルビジネスの変化に対応できる有能で良心あるビジネスリーダーを育成する」と謳われています。

同志社は小学校から大学・大学院に至るまで、今なお、校租新島襄の建学の精神が、脈々と引き継がれています。

私達卒業生OBも、それを忘れずボランティア活動に取り組みなければならないと思います。



同志社時報 No. 130号
「同志社教育の国際競争力」特集号

座談会「新時代を迎える同志社の国際主義教育」の中で、大迫弘和氏の率直な発言が目をはきまします。

（130号・27頁）

同志社は、初等教育から大学まで、国際主義教育としての問題意識、情熱をもって取り組んでいるが、何故、「もっと同志社全体が、一緒になって、魂、パワーとなって動かないのかと残念でならない」と発言しています。

「期待される同志社法人内での緊密な連携」で、オール同志社としての組織が繋がっていないことを指摘しているのです。

我々OBが、日頃感じていることですが、同志社の今後に期待しましょう。

（文責：北出 至）